



平成29年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年2月9日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 翻訳センター
コード番号 2483 URL <http://www.honyakuctr.com>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 東 郁男
問合せ先責任者 (役職名) 取締役総務部長 (氏名) 中本 宏

TEL 06-6282-5013

四半期報告書提出予定日 平成29年2月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第3四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第3四半期	7,752	15.3	570	64.6	583	70.0	362	18.6
28年3月期第3四半期	6,723	0.8	346	21.4	343	19.2	305	98.0

(注) 包括利益 29年3月期第3四半期 341百万円 (12.6%) 28年3月期第3四半期 303百万円 (90.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第3四半期	215.02	—
28年3月期第3四半期	181.26	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第3四半期	4,926	3,378	68.5
28年3月期	4,657	3,126	67.1

(参考) 自己資本 29年3月期第3四半期 3,378百万円 28年3月期 3,126百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	0.00	—	53.00	53.00
29年3月期	—	0.00	—	—	—
29年3月期(予想)	—	—	—	55.00	55.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,950	8.4	720	34.6	720	34.7	465	8.0	276.04

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

詳細は、添付資料P. 3「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(1)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

詳細は、添付資料P. 3「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(2)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	29年3月期3Q	1,684,500 株	28年3月期	1,684,500 株
② 期末自己株式数	29年3月期3Q	— 株	28年3月期	— 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	29年3月期3Q	1,684,500 株	28年3月期3Q	1,684,500 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。なお、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
(3) 追加情報	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が見られるなど、景気は緩やかな回復傾向にあるものの、新興国の経済減速、英国EU離脱問題に加え米国大統領選出に伴う影響等による海外経済の不確実性の高まりから、景気の先行きは楽観できない状況で推移いたしました。

このような環境のもと、当社グループでは第三次中期経営計画（平成28年3月期～平成30年3月期）において、言葉に関する事業領域の拡大による新たな価値創造を推し進め、企業のグローバル展開に伴う翻訳・通訳需要の獲得に努めてまいりました。

これらの結果、当社グループのコアビジネスである翻訳事業の売上高が前年同期比4.4%増と堅調に推移したことに加え、大型国際会議の運営によりコンベンション事業の売上高が前年同期比181.8%増と大幅に増加したことから、当第3四半期連結累計期間の売上高は前年同期比15.3%増の7,752百万円となりました。利益面においては、翻訳事業とコンベンション事業の売上増が寄与したことから、営業利益は前年同期比64.6%増の570百万円、経常利益は前年同期比70.0%増の583百万円となりました。また、前年第3四半期に投資有価証券売却益を計上していたため、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比18.6%増の362百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各セグメントの業績は次のとおりであります。

① 翻訳事業

特許分野では、企業の知的財産関連部署からの受注は好調に推移しましたが、特許事務所との取引が低調であったため、売上高は前年同期比1.1%減の1,346百万円となりました。医薬分野では、外資製薬会社からの安定した受注に加え、国内製薬会社における受注拡大やCRO（医薬品開発受託機関）から長期案件を獲得したこともあり、売上高は前年同期比4.5%増の1,807百万円となりました。工業・ローライゼーション分野では、電機・電子部品関連企業からの堅調な受注に加え、情報通信関連企業との取引が拡大したことから、売上高は前年同期比4.1%増の1,413百万円となりました。金融・法務分野では、企業の管理系部署における受注拡大に加え、銀行からのスポット案件獲得もあり、前年同期比21.6%増の569百万円となりました。

これらの結果、翻訳事業の売上高は前年同期比4.4%増の5,138百万円となりました。

② 派遣事業

語学スキルの高い人材を派遣する派遣事業においては、金融関連企業やITサービス関連企業からの求人が堅調に推移し、売上高は前年同期比0.9%増の663百万円となりました。

③ 通訳事業

通訳事業においては、IR通訳や医薬品関連企業などからの受注が堅調に推移するとともに、第3四半期において外資通信機器メーカーから大型の通訳案件を獲得したことから、売上高は前年同期比19.7%増の588百万円となりました。

④ 語学教育事業

語学教育事業においては、株式会社アイ・エス・エス・インスティテュートが運営する通訳者・翻訳者育成講座のうち春季レギュラーコース（4月～9月開講）は計画通り集客できましたが、秋季レギュラーコース（10月～3月開講）の集客は計画を下回ったことから、売上高は前年同期比横ばいの162百万円となりました。

⑤ コンベンション事業

コンベンション事業においては、今年6月に福岡で開催された大型国際会議「第99回ライオンズクラブ国際大会」をはじめ「第40回国際外科学会世界総会（ICS2016）」、「診療情報管理協会国際連盟第18回国際大会」などを運営し、売上高は前年同期比181.8%増の1,073百万円となりました。

⑥ その他

その他のセグメントにおいては、外国への特許出願に伴う明細書の作成や出願手続きを行う株式会社外国出願支援サービスが好調に推移したことなどから、売上高は前年同期比10.2%増の127百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は4,417百万円となり、前連結会計年度末に比べ319百万円増加いたしました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益の計上などにより現金預金が178百万円増加したことによるものであります。固定資産は509百万円となり、前連結会計年度末に比べ50百万円減少いたしました。これは主にのれんの償却により無形固定資産が52百万円減少したことによるものであります。

この結果、総資産は4,926百万円となり、前連結会計年度末に比べ269百万円増加いたしました。

（負債）

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は1,476百万円となり、前連結会計年度末に比べ41百万円増加いたしました。これは主に買掛金が57百万円増加したことによるものであります。固定負債は71百万円となり、前連結会計年度末に比べ24百万円減少いたしました。これは主に役員退任に伴い役員退職慰労引当金が11百万円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は1,547百万円となり、前連結会計年度末に比べ16百万円増加いたしました。

（純資産）

当第3四半期連結会計期間末における純資産は3,378百万円となり、前連結会計年度末に比べ252百万円増加いたしました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益の計上などにより利益剰余金が272百万円増加したことによるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年3月期の連結業績予想については、平成28年10月27日の「業績予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（2）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（会計方針の変更）

（平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用）

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第32号 平成28年6月17日）を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

この変更による当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

（3）追加情報

（繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用）

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を第1四半期連結会計期間から適用しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,192,270	2,370,809
受取手形及び売掛金（純額）	1,577,831	1,733,606
仕掛品	121,777	107,006
その他	205,442	205,744
流動資産合計	4,097,320	4,417,166
固定資産		
有形固定資産	127,969	107,477
無形固定資産		
のれん	91,502	45,329
その他	77,677	71,777
無形固定資産合計	169,180	117,107
投資その他の資産	262,588	284,731
固定資産合計	559,738	509,315
資産合計	4,657,059	4,926,481
負債の部		
流動負債		
買掛金	697,459	755,282
未払法人税等	137,797	105,416
賞与引当金	169,055	145,610
その他	430,843	470,053
流動負債合計	1,435,155	1,476,363
固定負債		
役員退職慰労引当金	35,400	23,800
退職給付に係る負債	32,269	30,875
その他	28,232	16,821
固定負債合計	95,902	71,496
負債合計	1,531,057	1,547,859
純資産の部		
株主資本		
資本金	588,443	588,443
資本剰余金	478,823	478,823
利益剰余金	2,027,602	2,300,529
株主資本合計	3,094,868	3,367,795
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	31,133	10,826
その他の包括利益累計額合計	31,133	10,826
純資産合計	3,126,002	3,378,622
負債純資産合計	4,657,059	4,926,481

（2）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

（四半期連結損益計算書）

（第3四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第3四半期連結累計期間 （自平成27年4月1日 至平成27年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自平成28年4月1日 至平成28年12月31日）
売上高	6,723,293	7,752,521
売上原価	3,888,548	4,612,426
売上総利益	2,834,744	3,140,094
販売費及び一般管理費	2,488,317	2,569,867
営業利益	346,427	570,227
営業外収益		
受取利息	602	73
受取配当金	500	—
持分法による投資利益	—	1,222
為替差益	685	9,488
その他	848	2,352
営業外収益合計	2,636	13,137
営業外費用		
支払利息	67	48
持分法による投資損失	5,936	—
その他	—	32
営業外費用合計	6,004	80
経常利益	343,059	583,284
特別利益		
投資有価証券売却益	172,477	—
持分変動利益	—	1,397
特別利益合計	172,477	1,397
税金等調整前四半期純利益	515,537	584,682
法人税等	210,204	222,476
四半期純利益	305,333	362,205
親会社株主に帰属する四半期純利益	305,333	362,205

（四半期連結包括利益計算書）

（第3四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日）
四半期純利益	305,333	362,205
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△1,789	△20,306
その他の包括利益合計	△1,789	△20,306
四半期包括利益	303,543	341,898
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	303,543	341,898
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自平成27年4月1日 至平成27年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント						その他 (注)	合計
	翻訳事業	派遣事業	通訳事業	語学教育 事業	コンベン ション事業	計		
売上高								
外部顧客への売上 高	4,917,110	656,746	490,986	162,040	380,902	6,607,786	115,507	6,723,293
セグメント間の内部 売上高又は振替 高	33,047	1,840	18,284	671	—	53,844	17,373	71,217
計	4,950,157	658,587	509,270	162,712	380,902	6,661,630	132,880	6,794,510
セグメント利益又は 損失 (△)	292,331	29,691	6,895	19,032	31,939	379,891	△7,269	372,622

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、外国出願支援事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容 (差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	379,891
「その他」の区分の損失 (△)	△7,269
セグメント間取引消去	15,693
のれんの償却額	△41,888
四半期連結損益計算書の営業利益	346,427

II 当第3四半期連結累計期間（自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント						その他 (注)	合計
	翻訳事業	派遣事業	通訳事業	語学教育 事業	コンベン ション事業	計		
売上高								
外部顧客への売上 高	5,138,167	663,122	588,118	162,036	1,073,742	7,625,188	127,332	7,752,521
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	47,392	1,105	25,842	917	—	75,257	21,567	96,825
計	5,185,559	664,227	613,961	162,954	1,073,742	7,700,446	148,900	7,849,346
セグメント利益	378,633	36,267	19,335	4,674	150,883	589,794	7,757	597,552

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、外国出願支援事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

利益	金額
報告セグメント計	589,794
「その他」の区分の利益	7,757
セグメント間取引消去	14,563
のれんの償却額	△41,888
四半期連結損益計算書の営業利益	570,227